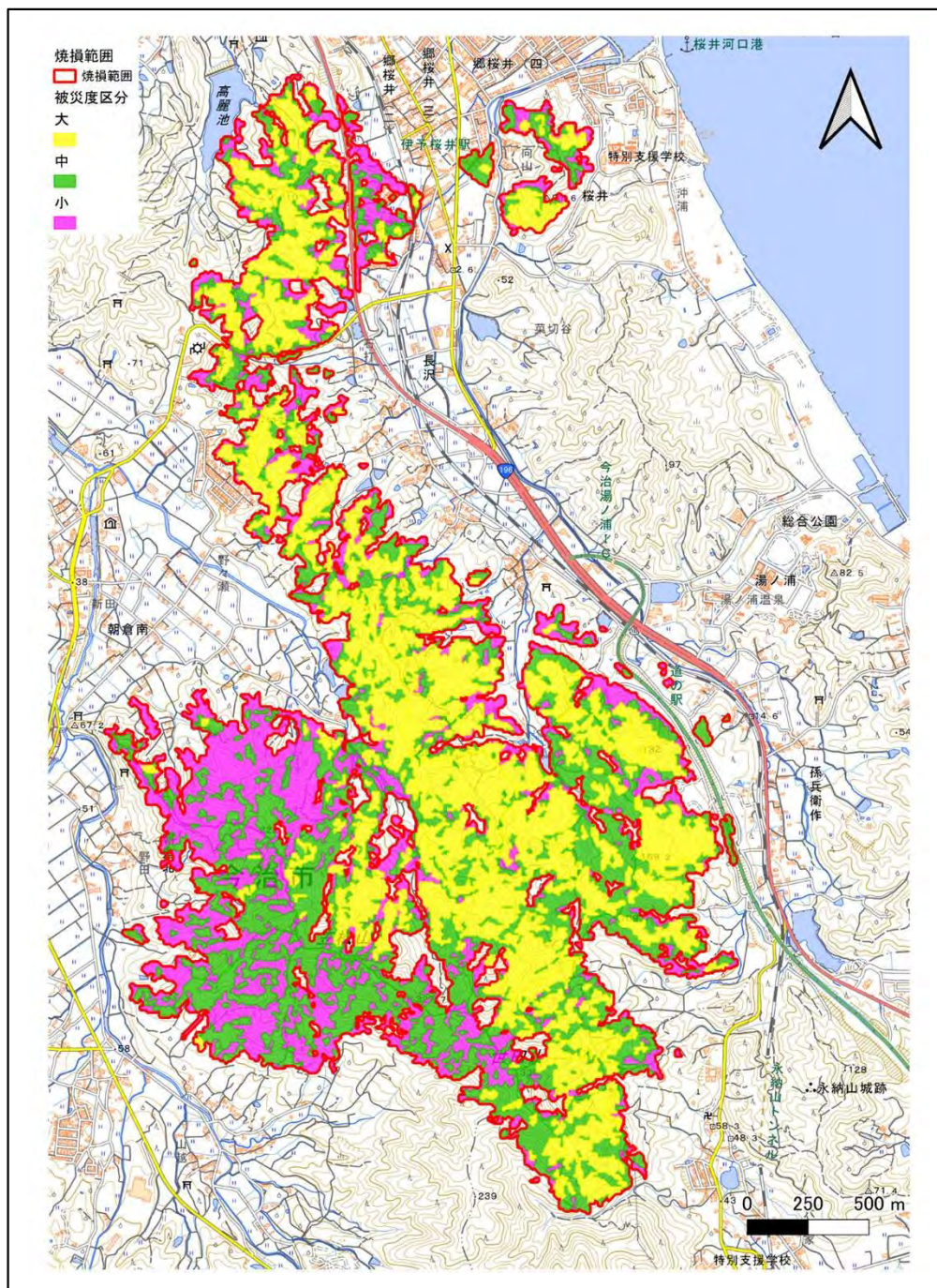
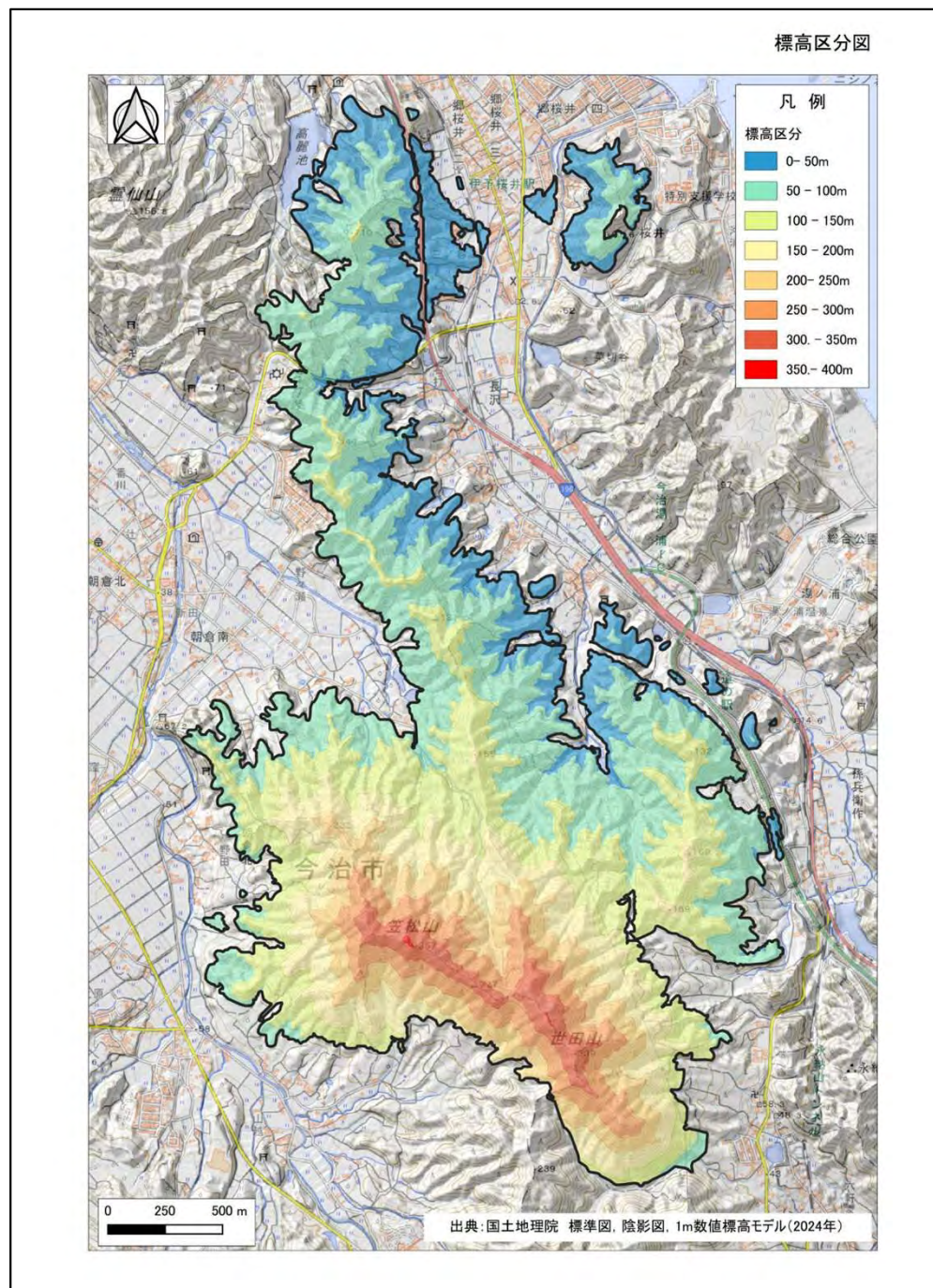


1.机上調査(被災度区分図)

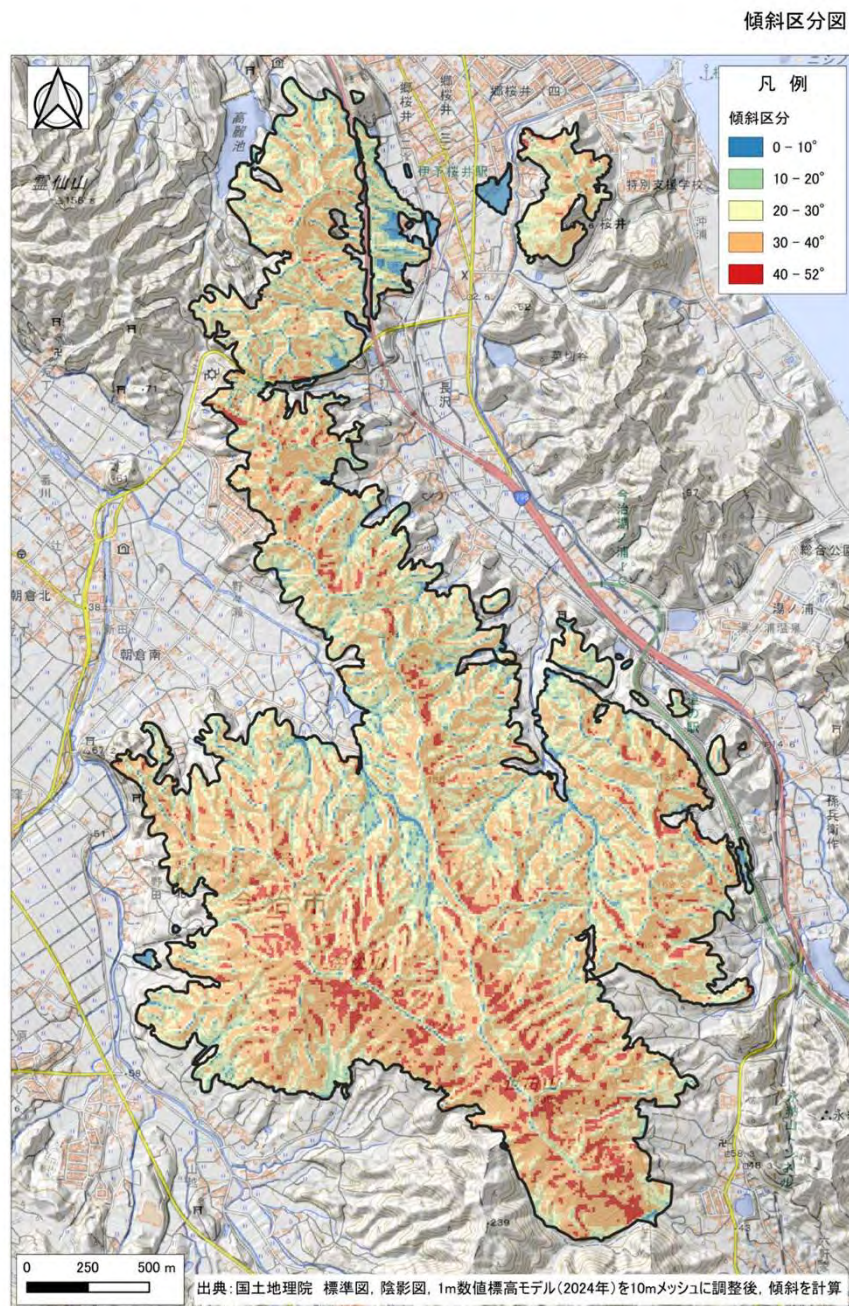


1.机上調査(標高区分図)

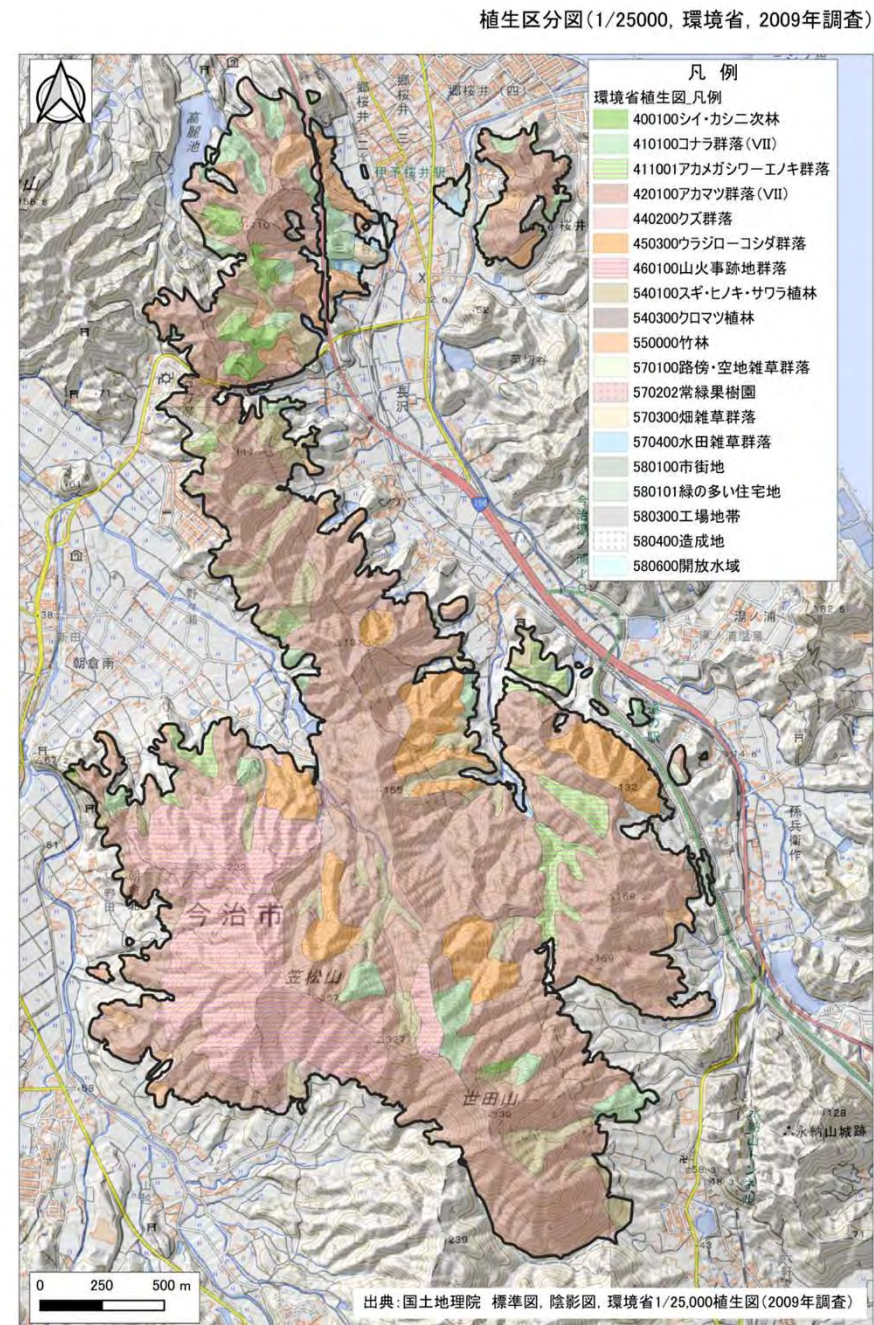


(4) 現地調査の経過について

1.机上調査(傾斜区分図)



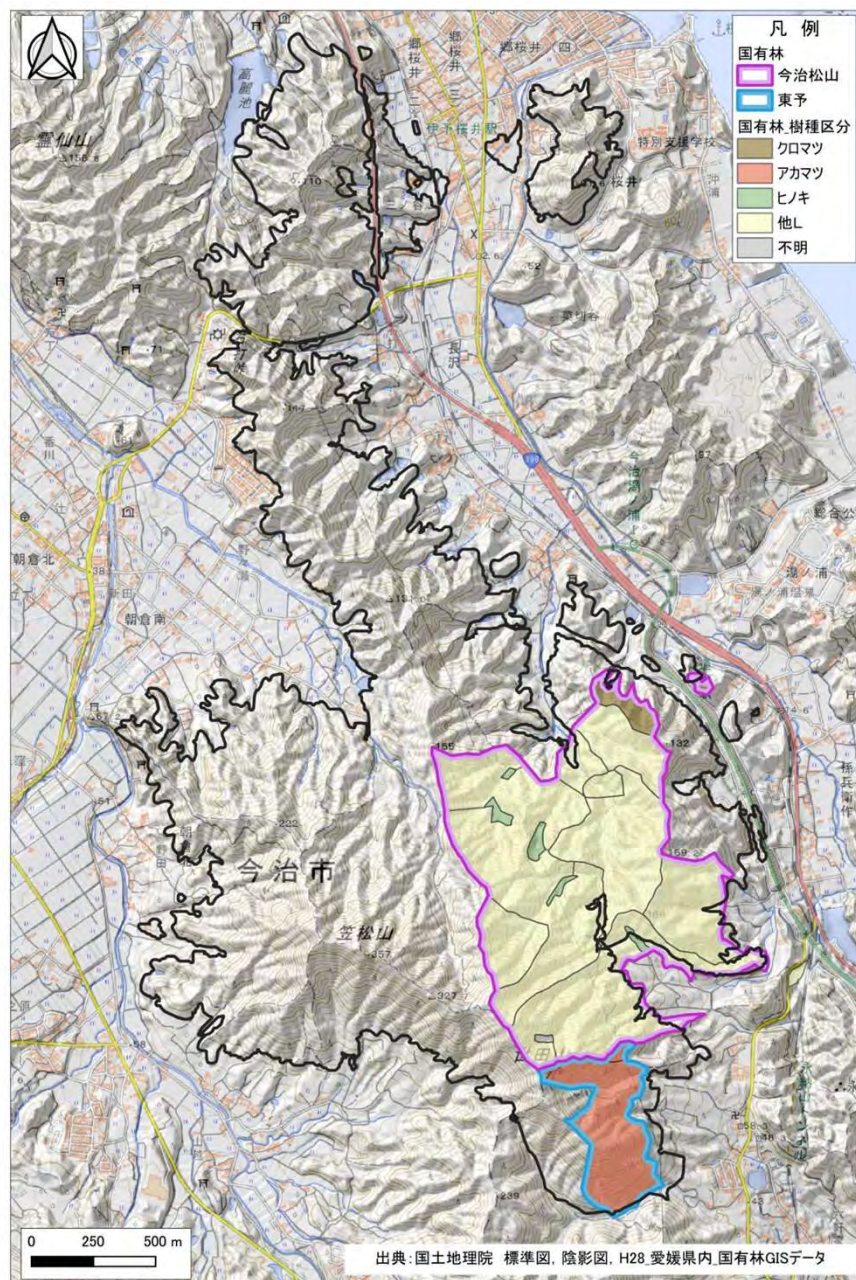
1.机上調査(植生区分図)



(4) 現地調査の経過について

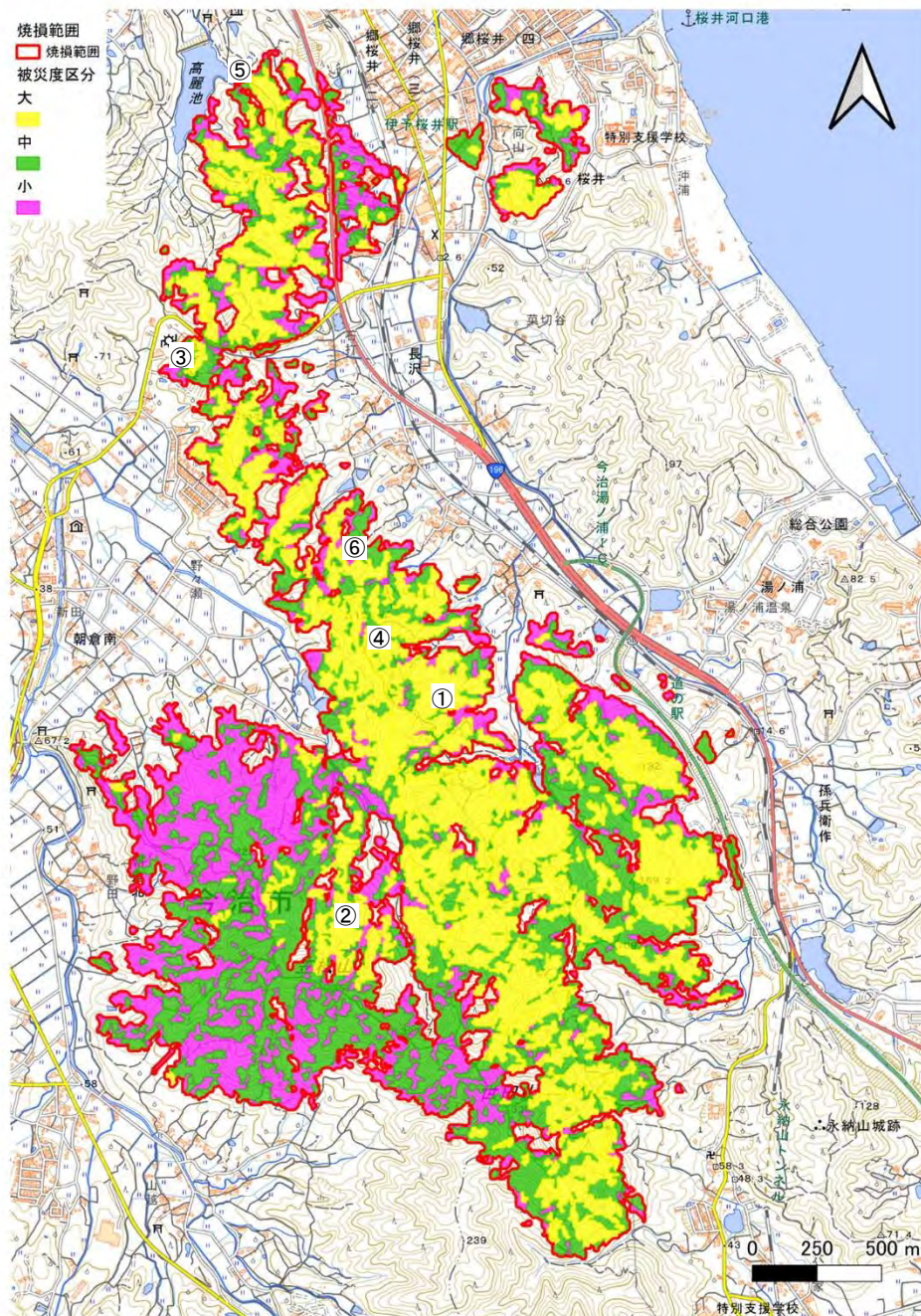
1. 机上調査(国有林森林GISデータ2024年: 樹種別)

国有林森林GIS樹種区分



(4) 現地調査の経過について

2. 現地調査: 被災度区分(大・中・小)



大



➤ 地表植生及び立木が完全～ほとんど延焼し、幹は残留しているが、細枝や葉が消失している。

中



➤ 地表植生が全面的～部分的・もしくは斑状に延焼し、中低木の幹の下部に焼跡が残し、葉は茶色に変色しているが、落葉は殆ど認められない。部分的に表皮のみが焼失している。

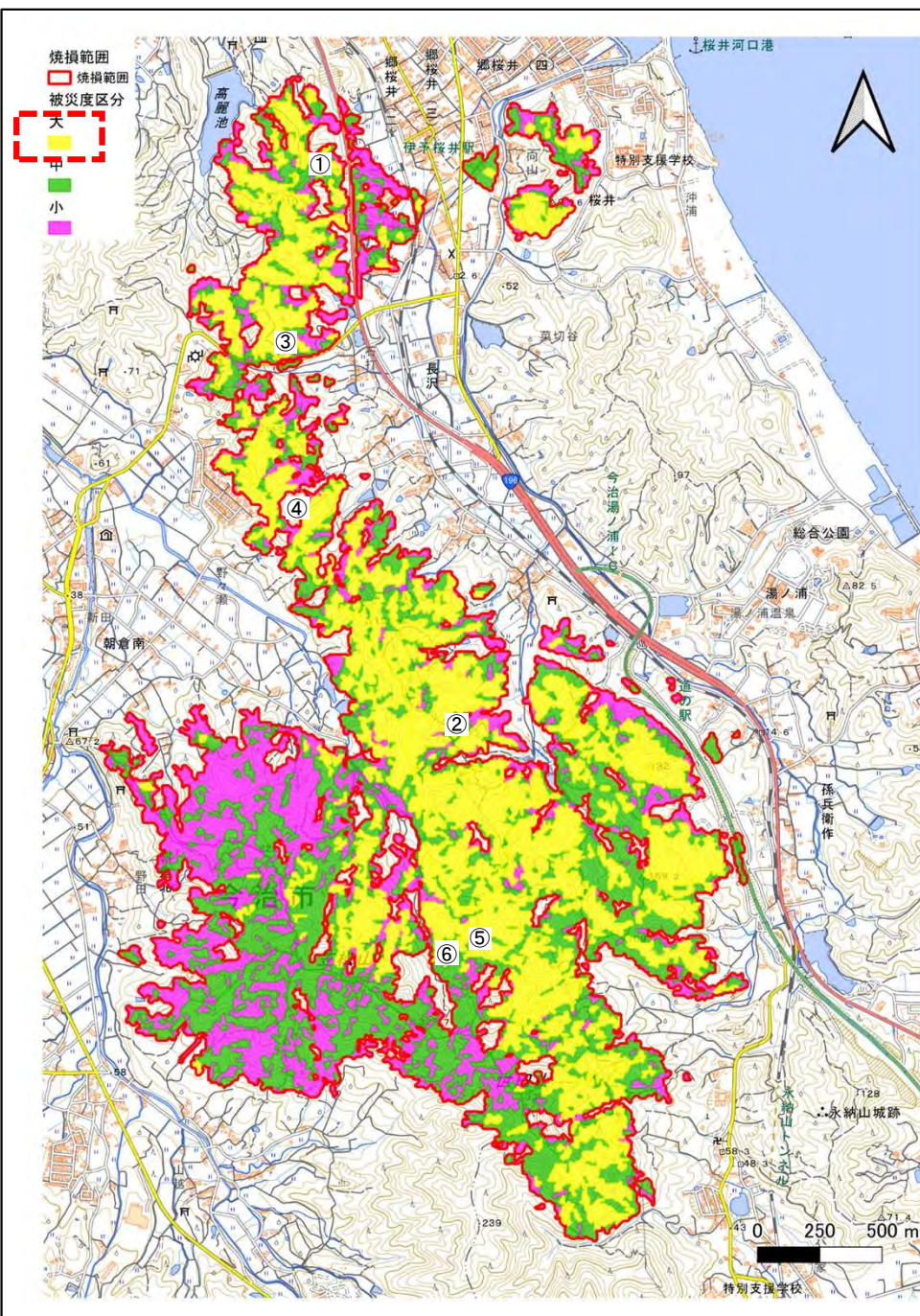
小



➤ 地表植生が部分的～全焼し、中低木(常緑樹)や針葉樹の幹に焼跡が残るが軽症である。葉は茶～緑色。

(4) 現地調査の経過について

2. 被災度区分(大: 下層植生状況)



シダ類焼跡(焼失し、僅かに残る)



①



②

➤ シダ等地表植生はほとんど焼失し、裸地化している。

シダ類焼跡(比較的厚く残る)



③



④

➤ シダの焼跡が比較的厚く残存する。凹地形では特にシダの燃え方が弱く、残っているケースが確認される。

シダ類の繁茂



⑤

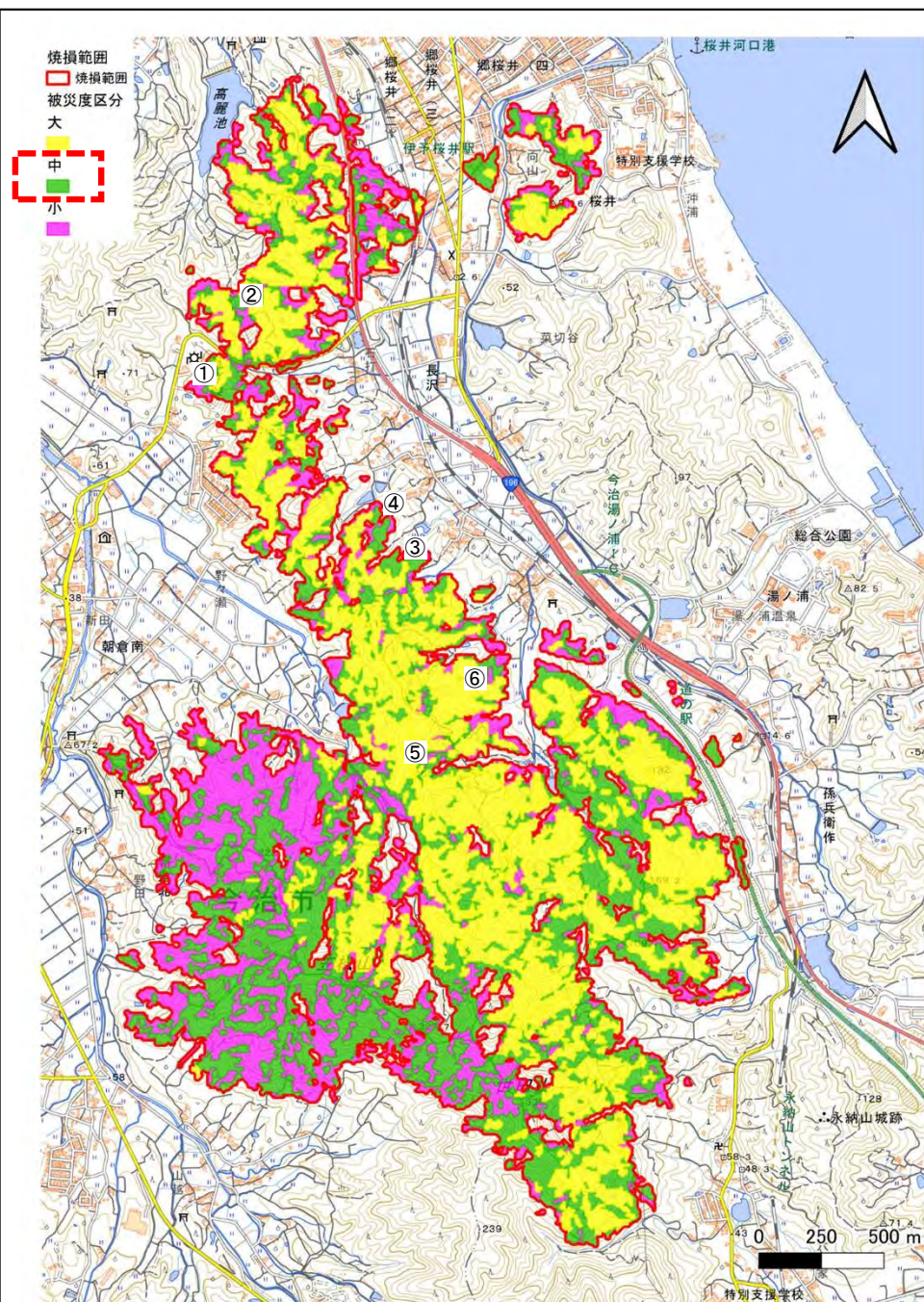


⑥

➤ 箇所は少ないが、シダの繁茂(6月上旬)が確認される区域。

(4) 現地調査の経過について

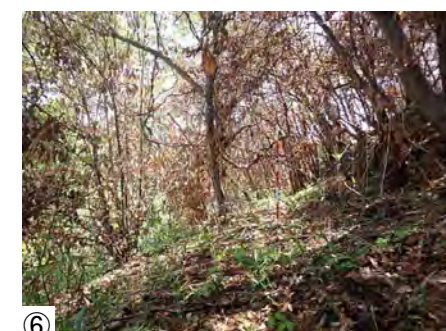
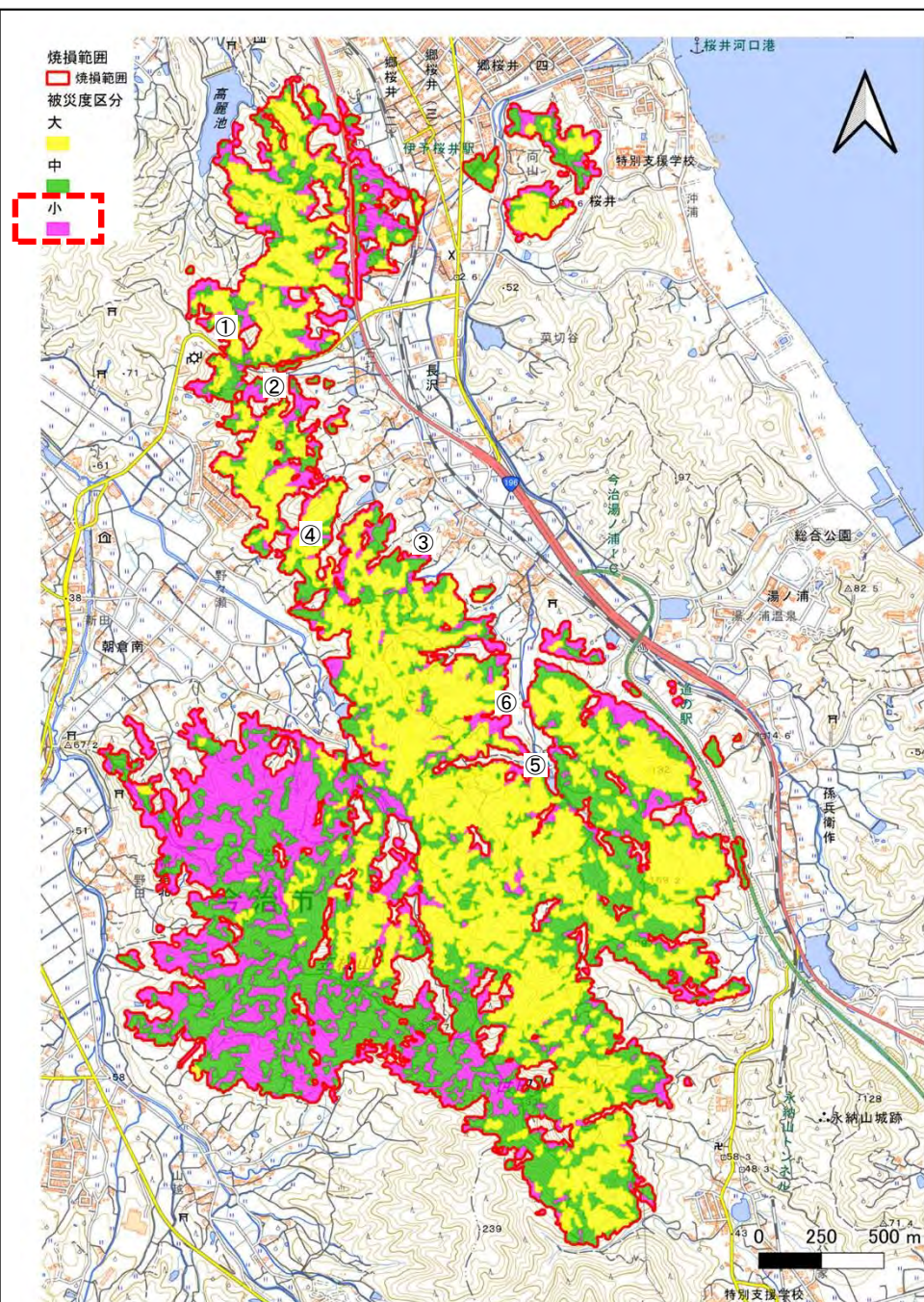
2. 被災度区分(中)



➤ 地表植生が全面的～部分的・もしくは斑状に延焼し、中低木の幹の下部に焼跡が残
り、葉は茶色に変色しているが、落葉は殆ど認められない。部分的に表皮のみが焼
失している。

(4) 現地調査の経過について

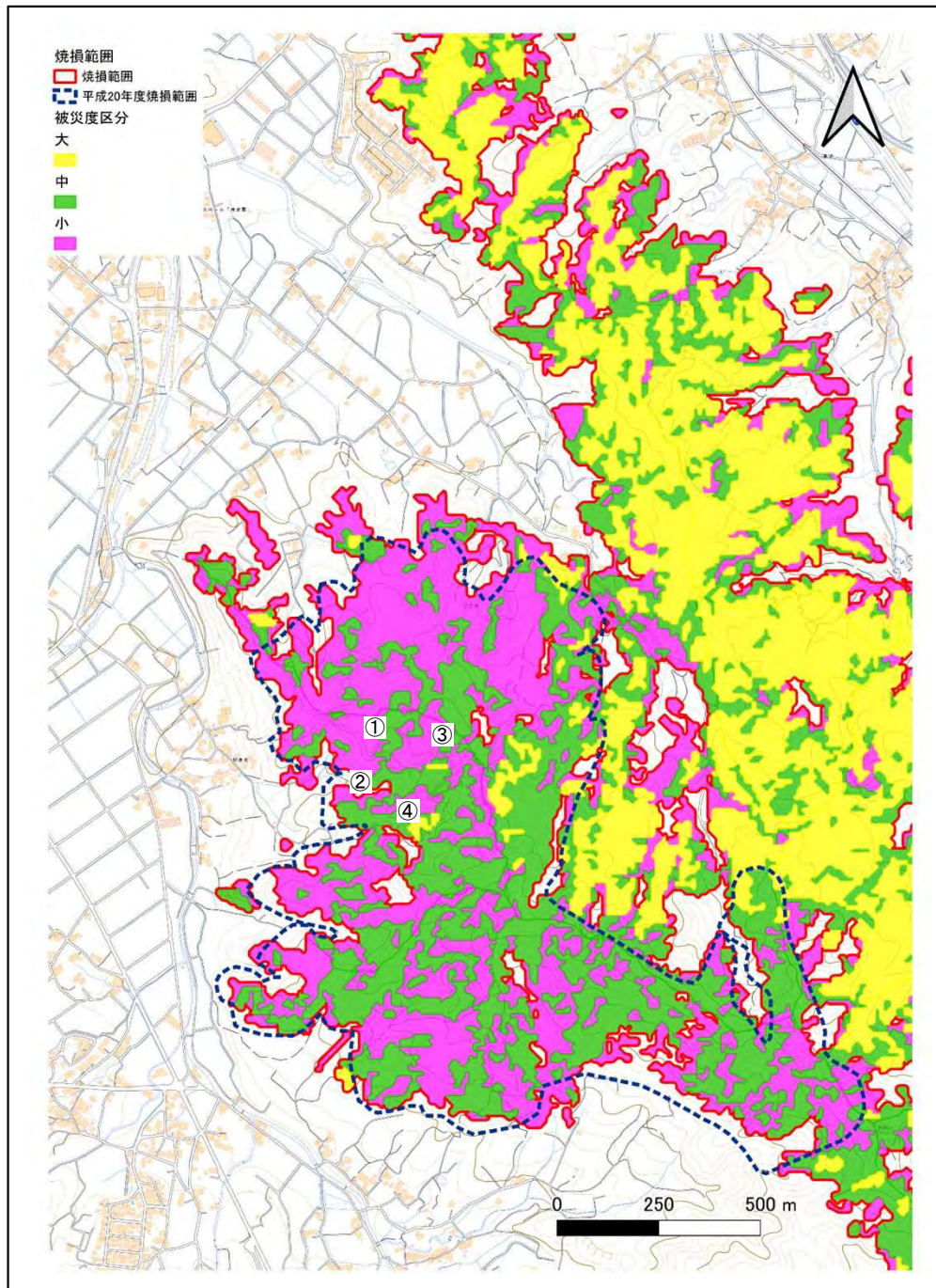
2. 被災度区分(小)



➤ 地表植生が部分的～全焼し、中低木(常緑樹)や針葉樹の幹に焼跡が残るが軽症である。葉は茶～緑色。

(4) 現地調査の経過について

3. 笠松山被災状況(平成20年被災箇所)



笠松山 森林整備区域



笠松山 森林整備区域



①

笠松山 森林整備区域



②

笠松山 森林整備区域



③

笠松山 森林整備区域



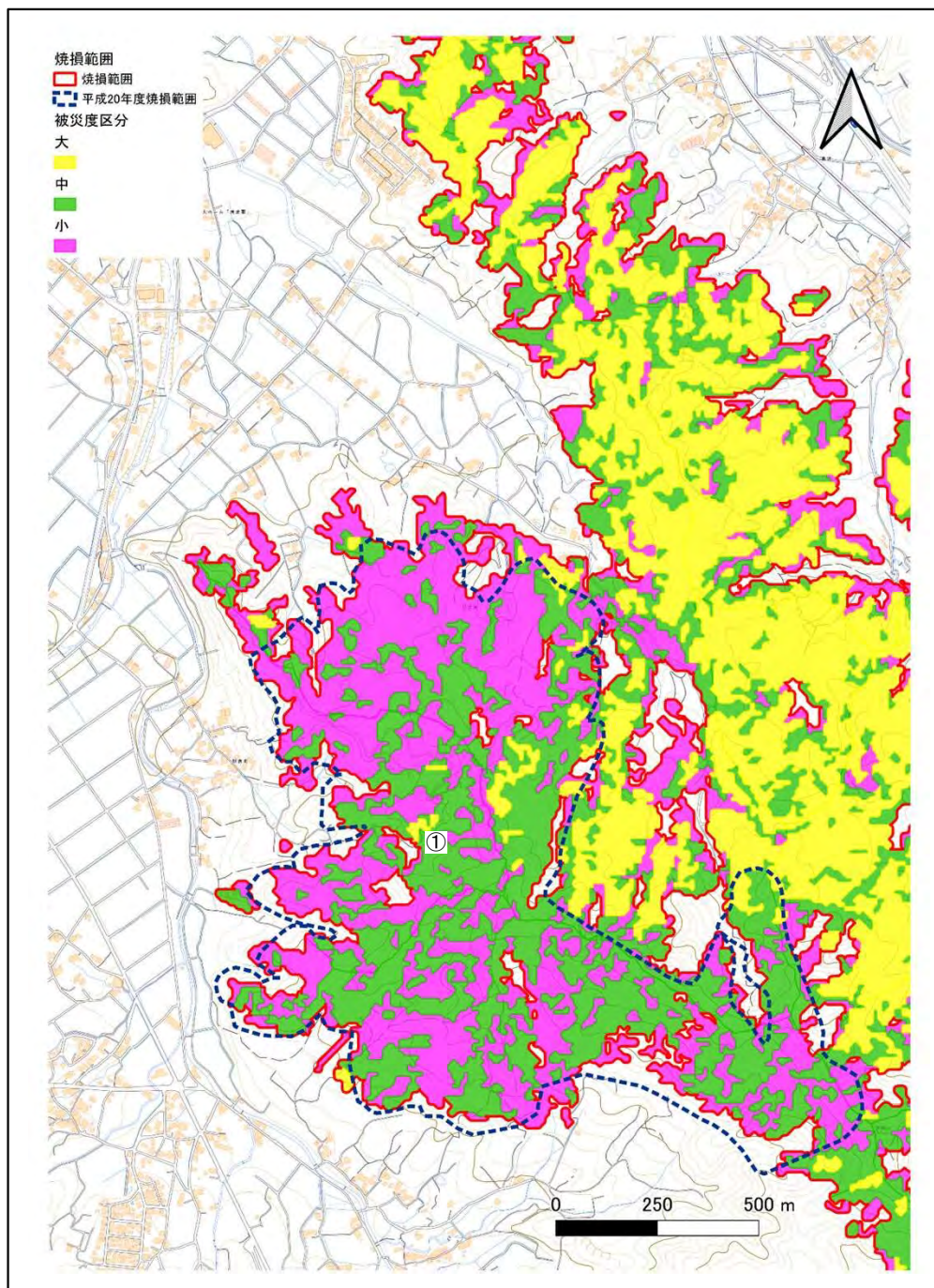
④

笠松山 森林整備区域

➤ 平成20年笠松山林野火災区域の被災度は概ね「中」～「小」となっている。

(4) 現地調査の経過について

3. 笠松山被災状況(平成20年被災箇所)



笠松山 防火帯



笠松山 防火帯



笠松山 筋工焼損状況



笠松山 筋工焼損状況



笠松山 一部「大」区域

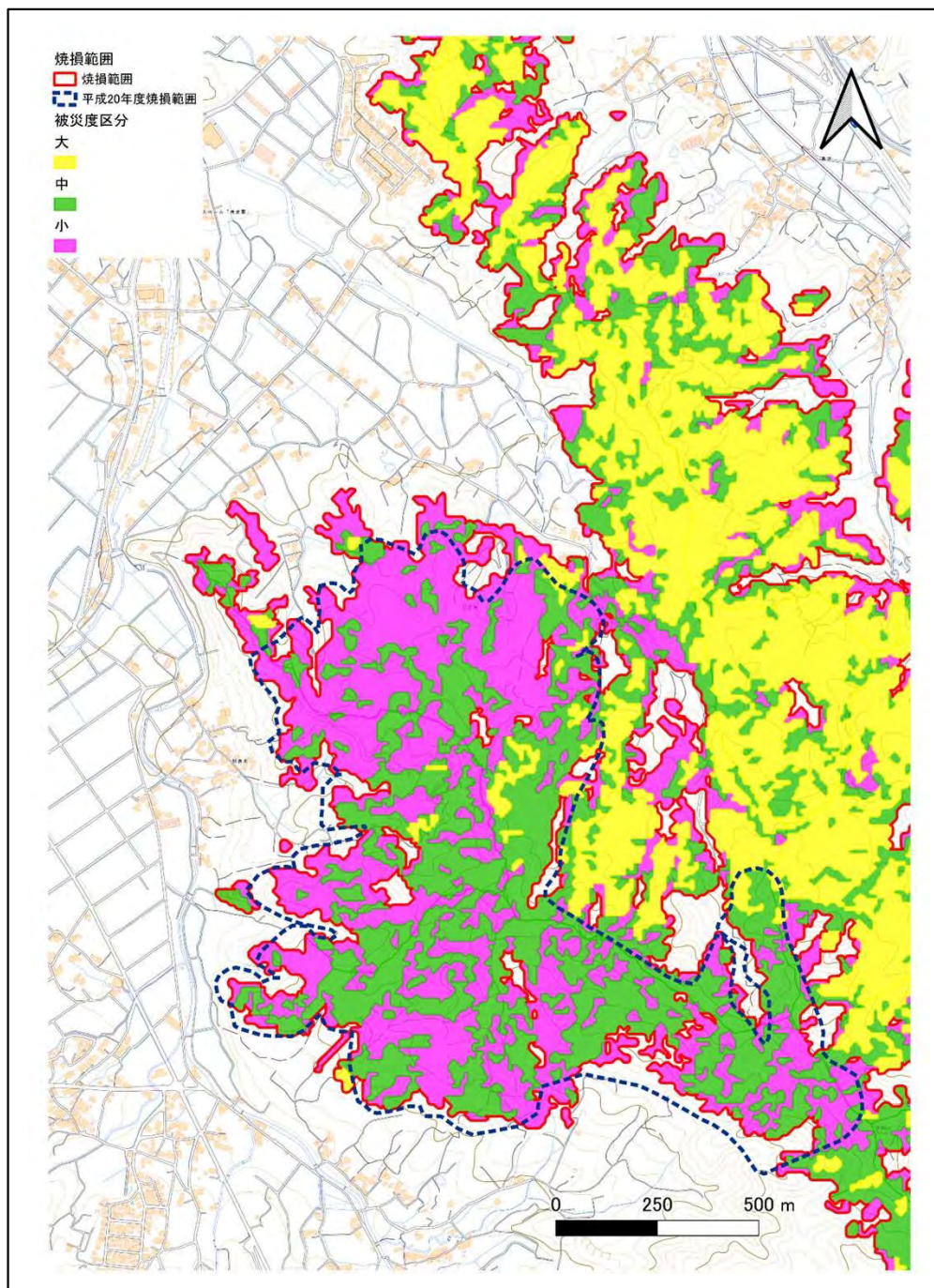


笠松山 一部「大」区域(遠景)

➤ 防火帯による火災の延焼防止の効果は今後検証。一部森林整備未整備箇所が今回の火災により被災度「大」となった区域あり。

(4) 現地調査の経過について

3. 笠松山被災状況(平成20年被災箇所)



樹木被災状況 スダジイ



樹木被災状況 スダジイ(拡大)



樹木被災状況 ヤシャブシ



樹木被災状況 ヤシャブシ(拡大)



樹木被災状況 ウバメガシ



樹木被災状況 ウバメガシ(拡大)

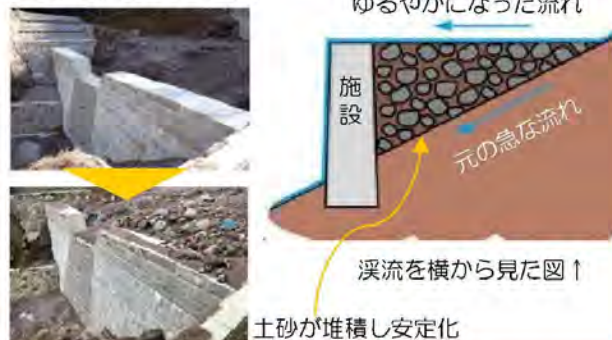
➤ 森林整備範囲(植栽等)については、多くの樹木で葉の変色が確認された。今後被災した樹木について継続観察が必要である。

(4) 現地調査の経過について

治山ダムの機能・型式

治山ダム工（溪間工）

治山ダム工等の施設の設置により、溪岸・溪床の侵食防止や山脚の固定等を図り、森林の生育基盤を確保します。また、流木を捕捉する治山ダム工の設置も推進しています。



<林野庁資料：治山のしおりより>

- 治山ダムの設置により溪流の流れを緩やかにし、溪流や山腹斜面の安定化を図ります。
- 治山ダムは、設置場所や保全対象との位置関係および設置目的等を考慮し、「完成時にダム上流を空けておき徐々に埋まっていくタイプ」や「完成時にダム高さまで満砂しているタイプ」があります。
- 治山ダムの効果は、上流側が埋まること（満砂）によって、最大限に発揮されます。



完成時（ダム上流を空けておくタイプ）
平成20年施工（上流側）



現況



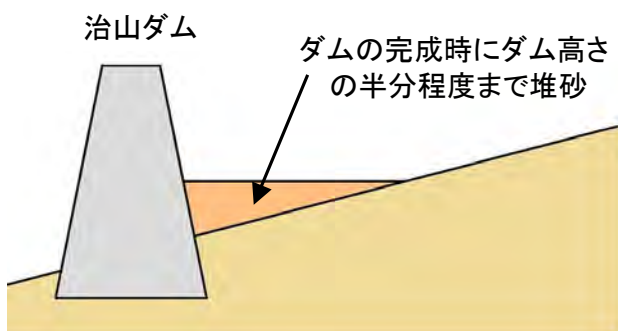
完成時（ダムの高さまで満砂しているタイプ）
平成20年施工（上流側）



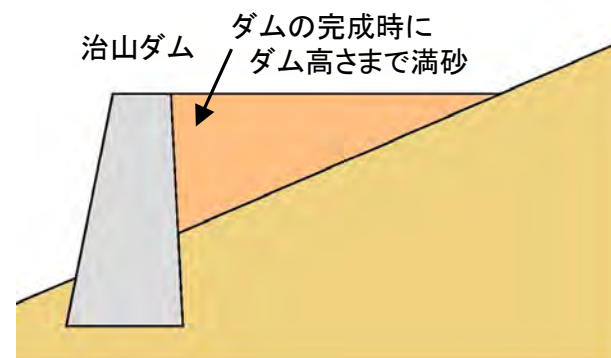
現況

<治山ダムの主な型式：横から見た図>

完成時にダム上流を空けておくタイプ

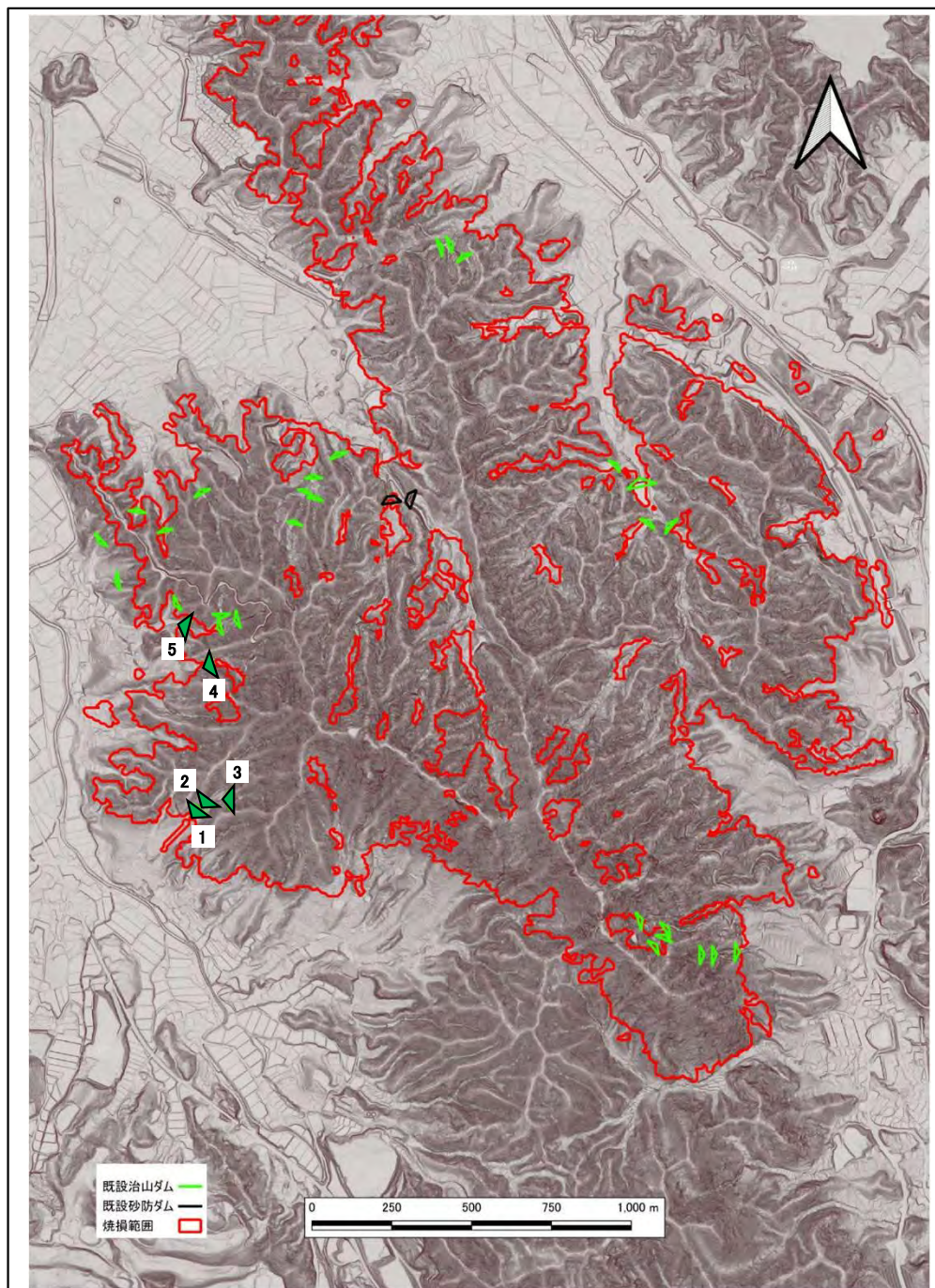


完成時にダムの高さまで満砂しているタイプ



(4) 現地調査の経過について

4. 既設治山ダム現況(堆砂状況)



谷止工1(平成10年施工)
概ね満砂状況



谷止工2(平成11年施工)
堆砂状況



谷止工3(平成11年施工)
堆砂状況



谷止工4(1)(平成11年施工)
堆砂状況(満砂)



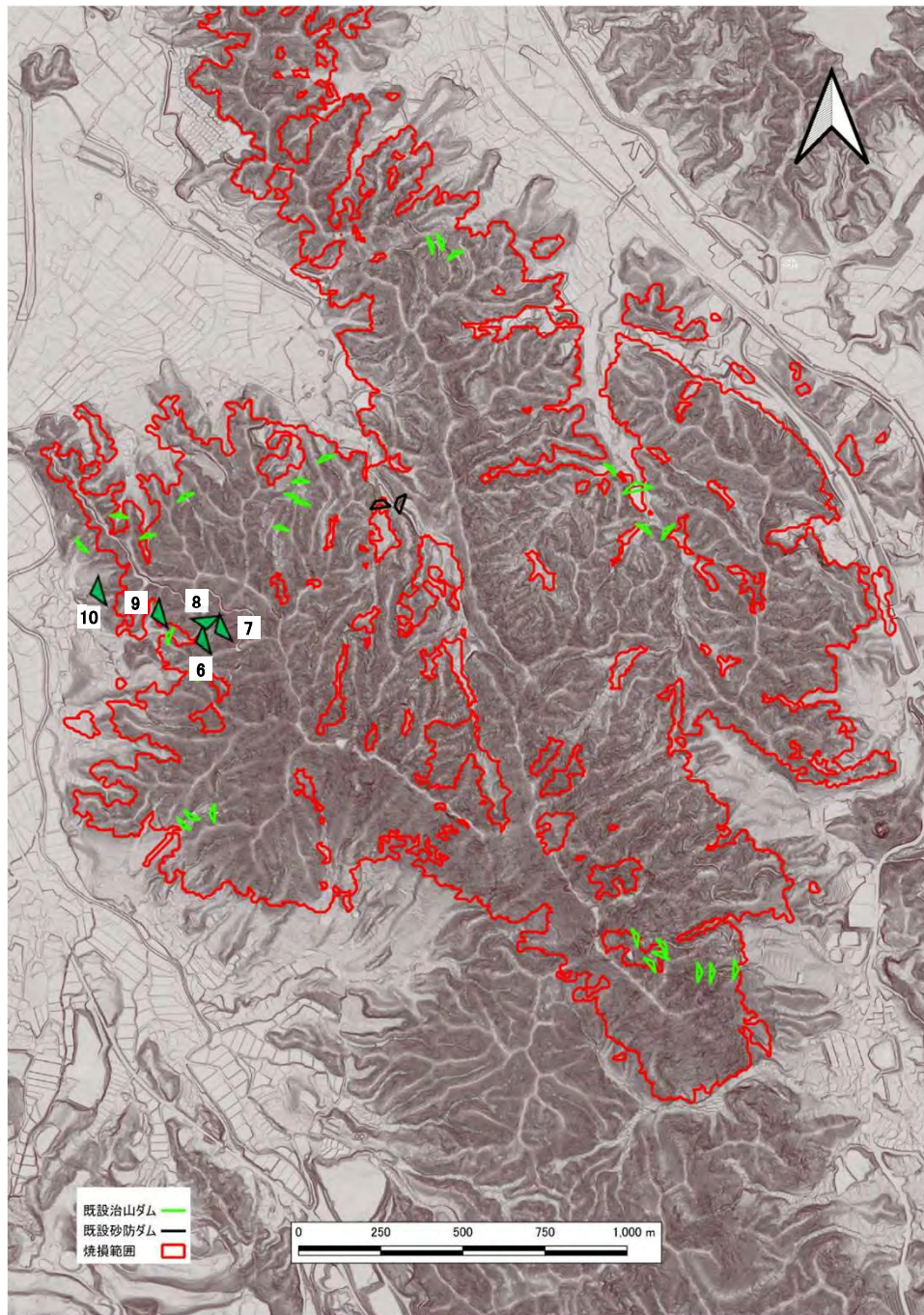
谷止工4(2)(平成11年施工)
堆砂状況(満砂)



谷止工5(平成20年施工)
堆砂状況

(4) 現地調査の経過について

4. 既設治山ダム現況(堆砂状況)



谷止工6(1)(平成20年施工)
堆砂状況



谷止工6(2)(平成20年施工)
堆砂状況(表面に灰の堆積)



谷止工7(平成20年施工)
堆砂状況(満砂)



谷止工8(平成20年施工)
堆砂状況(満砂)



谷止工9(平成27年施工)
堆砂状況

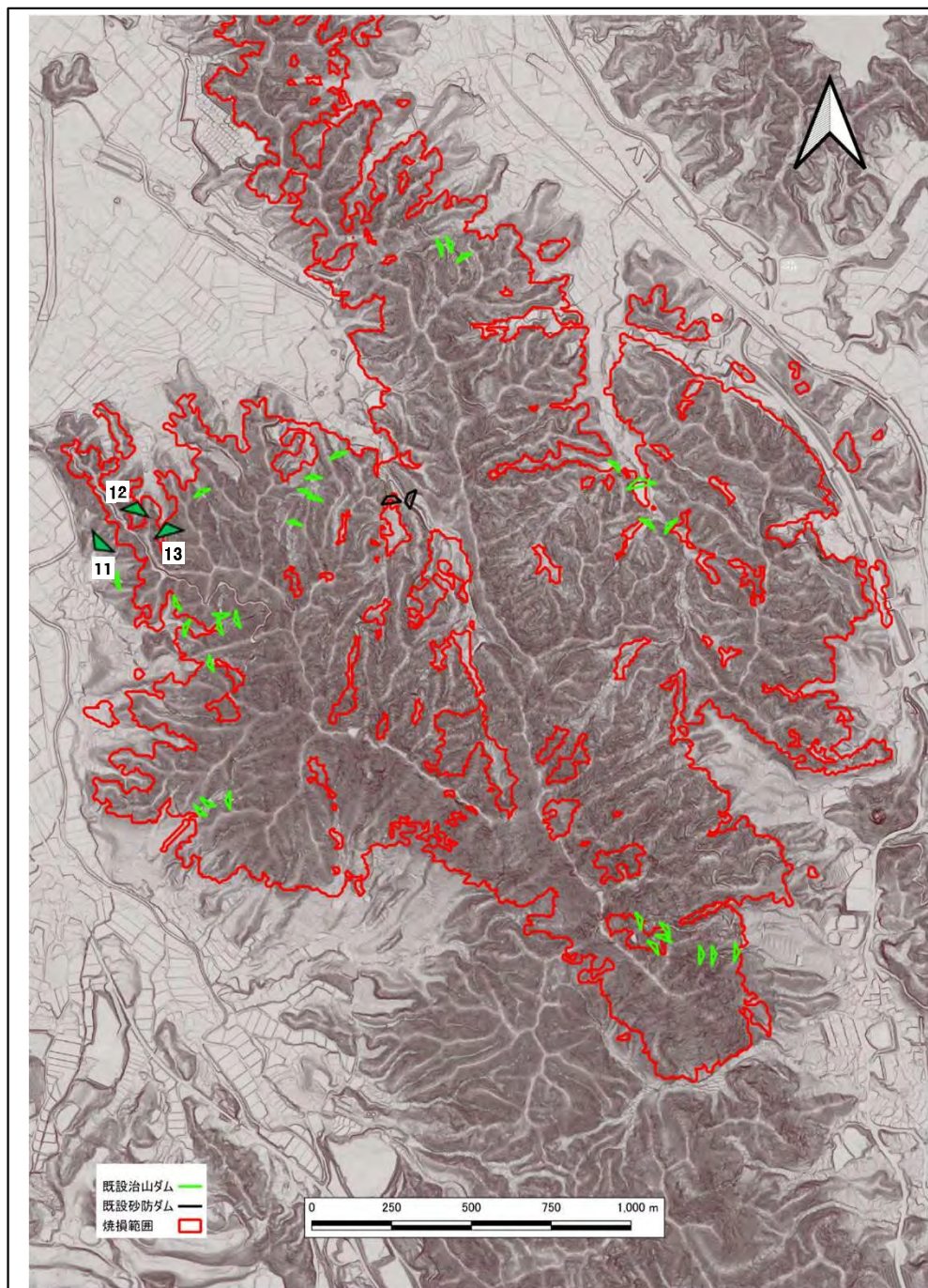


谷止工10(令和3年施工)
堆砂状況

➤ 谷止工6では灰の堆積を確認。

(4) 現地調査の経過について

4. 既設治山ダム現況(堆砂状況)



谷止工11(1)(令和4年施工)
堆砂状況



谷止工11(2)(令和4年施工)
下流側 灰の流下状況



谷止工12(1)(平成20年施工)
堆砂状況(満砂)



谷止工12(1)(平成20年施工)
湛水状況(灰の流下)



谷止工13(1)(平成20年施工)
堆砂状況

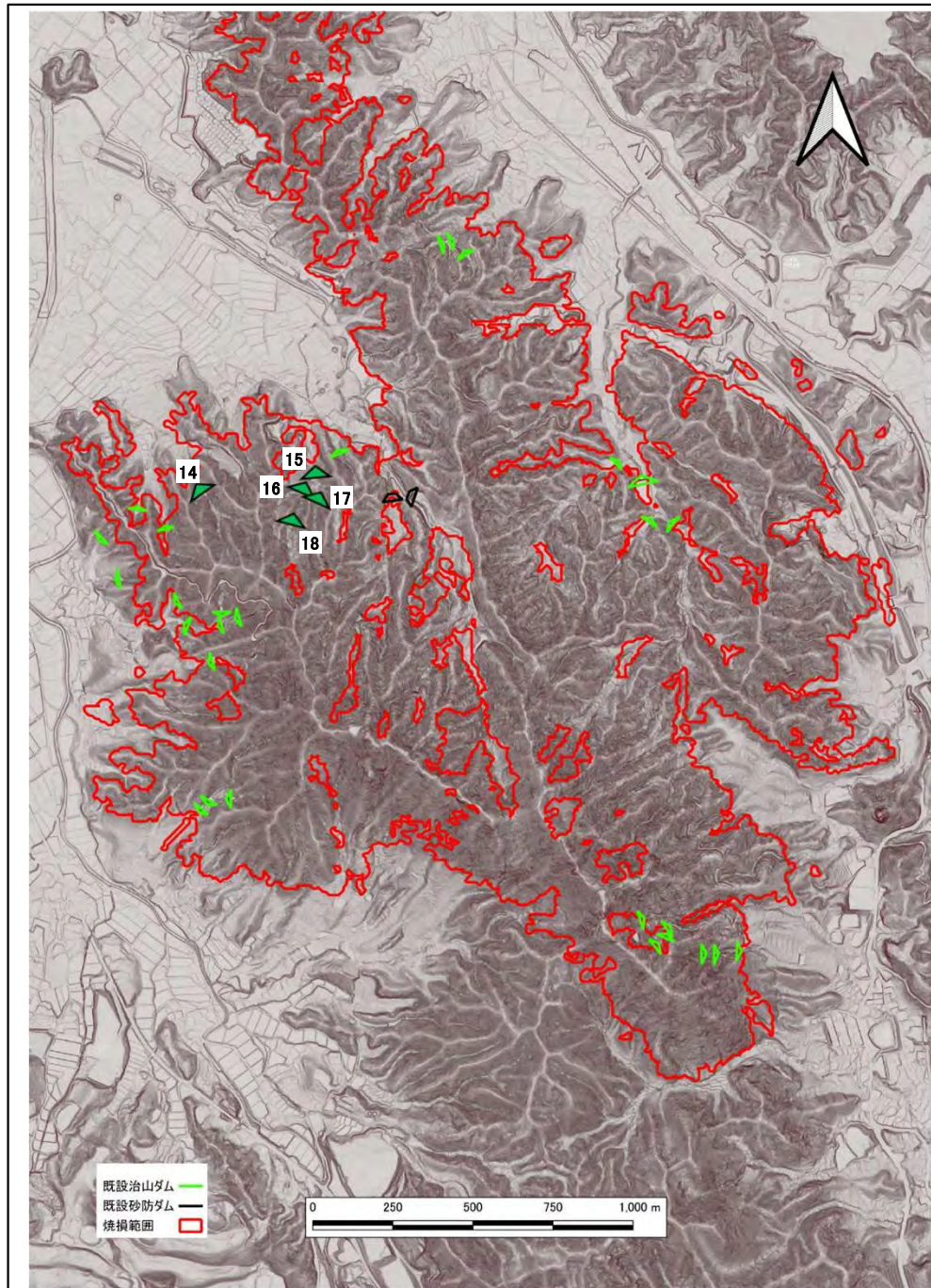


谷止工13(2)(平成20年施工)
灰の流下状況

➤ 谷止工11の下流側では灰の流下を、谷止工12上流湛水箇所及び谷止工13上流では灰の流下を確認。

(4) 現地調査の経過について

4. 既設治山ダム現況(堆砂状況)



谷止工14(平成20年施工)
堆砂状況



谷止工15(平成10年施工)
堆砂状況



谷止工16(1)(平成10年施工)
堆砂状況



谷止工16(2)(平成10年施工)
灰の流下状況



谷止工17(平成11年施工)
堆砂状況

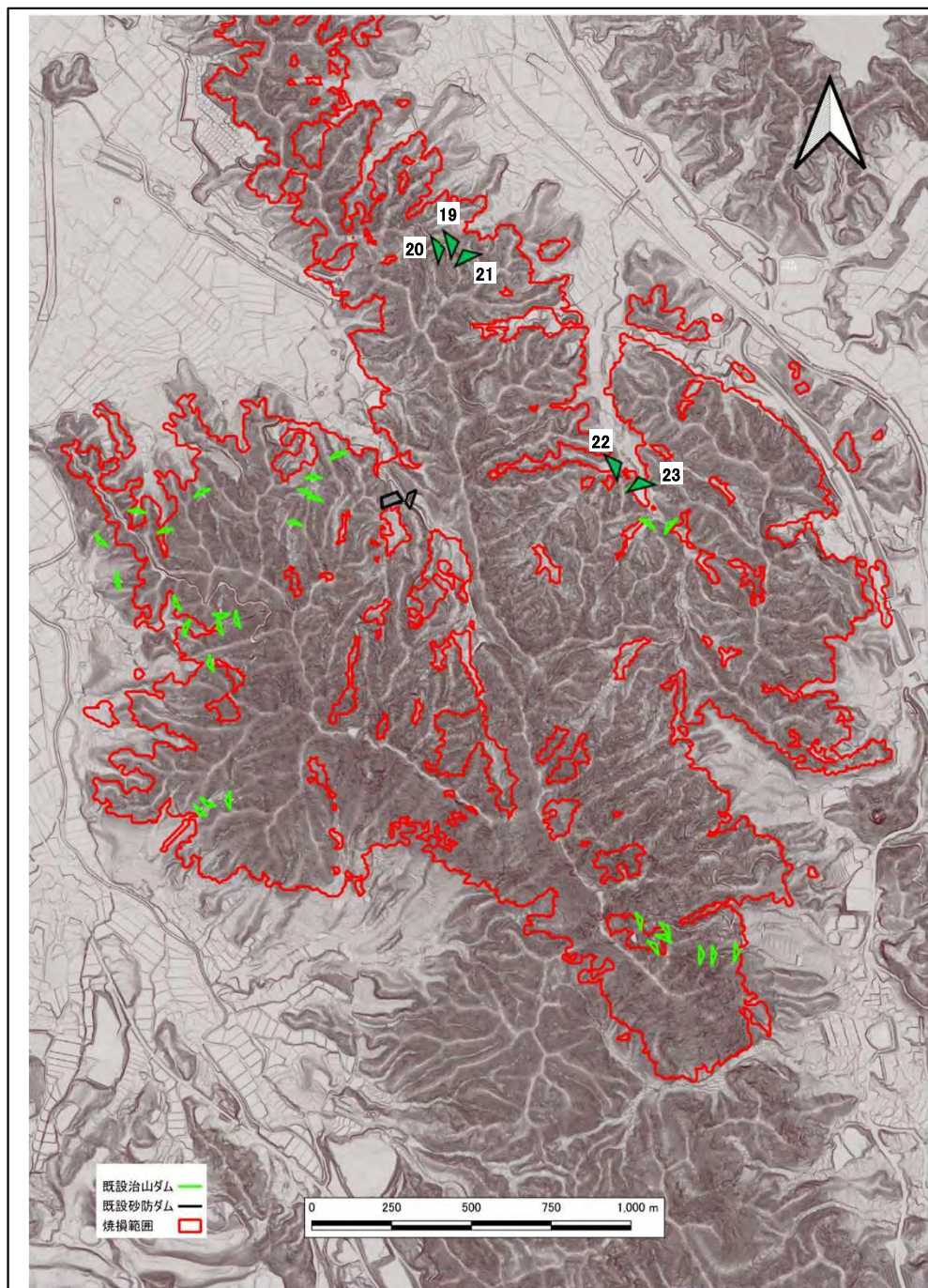


谷止工18(平成12年施工)
堆砂状況

➤ 谷止工16上流では流下水に伴う灰の流下を確認。

(4) 現地調査の経過について

4. 既設治山ダム現況(堆砂状況)



谷止工19(平成4年施工)
堆砂状況(概ね満砂)



谷止工20(平成24年施工)
堆砂状況



谷止工21(平成24年施工)
堆砂状況



谷止工22(昭和62年施工)
堆砂状況(概ね満砂)



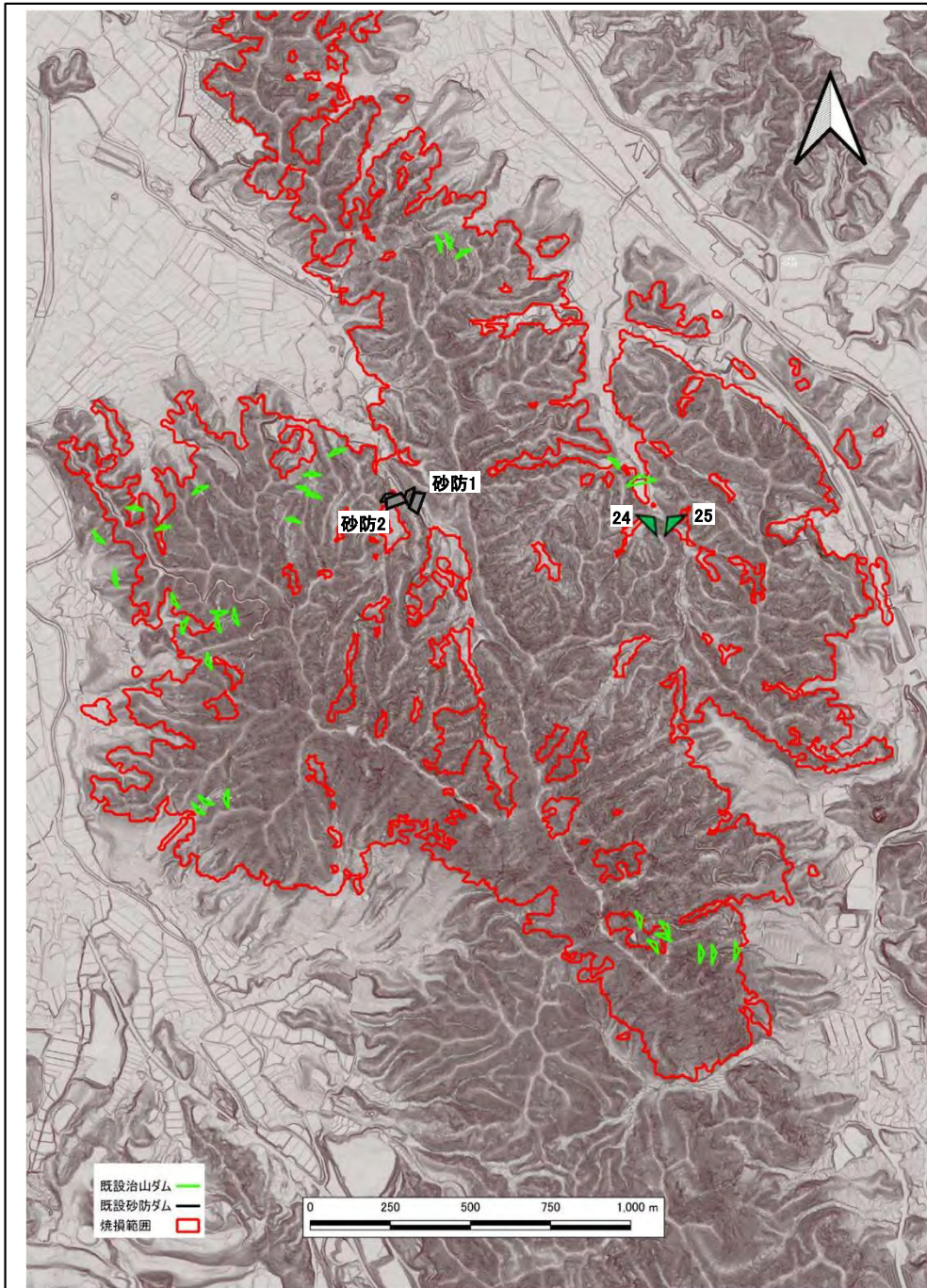
谷止工23 上流側状況



谷止工23 上流側状況

(4) 現地調査の経過について

4. 既設治山ダム現況(堆砂状況)



谷止工24(昭和63年施工)
堆砂状況(満砂)



谷止工25(昭和63年施工)
堆砂状況(満砂)



砂防ダム1(平成29年3月完成)
上流側



砂防ダム2(平成24年8月完成)
上流側

➤ 砂防ダム1では上流側で灰の流下・堆積を確認。